

令和 2 年度

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970200174	
法人名	株式会社 ユニマツ リタイアメント・コミュニティ	
事業所名	山梨ケアセンター そよ風	
所在地	山梨県山梨市上神内川15-5	
自己評価作成日	令和3年1月11日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を元に入居者様の想いに寄り添い、自立支援に力を入れ、持っている可能性を最大限に引き出しせるよう努力している。認知症であっても、「その人らしさ」を存分に発揮できるよう個を大事に支援している。入居者様に関する情報をご家族、各専門職で共有し、より良いケアが提供できるように努めている。ご家族様の希望と状態により、医師、看護師、多職種との連携を密に取り合うことで、入院など大きく体調を崩すことなく住み慣れた環境、馴染みの顔ぶれに見守られながら最期まで穏やかに過ごすことが出来ている。同一建物内に、デイサービス、ショートステイ事業所があり、グループホーム待機中に利用していただくことで、情報共有が密に行え、ワンストップサービスを実現していることが当事業所の強みと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、2階建てで山梨市駅から徒歩3分の道沿いにある。本社は全国に展開しており、そよかぜグループは県内にも4か所ある。協議会があり、お互いに協力体制が出来ている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で面会や外出が出来なかったが、家族には月ごとの行事や写真を送り、生活の様子を伝えている。利用者の持っている力を活かして、自発的に行動をしている。また、様々なレクリエーションで、生き生きと過ごしている。管理者を始め職員は、利用者が日々良質なサービスの水準を確保し、さらなる向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように(コロナ禍以前) 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が(コロナ禍以前) 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関フロア内に理念を掲示し、職員一人一人が理念を念頭におきつつケアが行なえるよう努力している。また、入居者、ご家族にも見て頂くことで理念に基づくケアが実践されているか確認できるような仕組み作りの工夫をしている。	玄関フロア内に理念を掲示し、職員一人一人が理念を念頭におきつつケアが行なえるよう努力している。また、入居者、ご家族にも見て頂くことで理念に基づくケアが実践されているか確認できるような仕組み作りの工夫をしている。	年度初めに理念について、職員全員で話し合い確認して、「ニコニコ介護、生き生き介護を目指す」という理念を基に支援をしている。職員は、日々利用者に関わる際に、理念を具体化して、きめ細やかなケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルス流行に伴い難しい場面も多かったが区長、民生委員、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校生、歯科、耳鼻科、病院、薬局等とつながりを持ち積極的に交流している。具体的には年2回、河川清掃参加、地区の幼稚園児の訪問などがある。	今年度は新型コロナウイルス流行に伴い難しい場面も多かったが区長、民生委員、近隣の幼稚園、保育園、小、中、高、専門学校生、歯科、耳鼻科、病院、薬局等とつながりを持ち積極的に交流している。具体的には年2回、河川清掃参加、地区の幼稚園児の訪問などがある。	河川清掃の際には職員が複数参加している。同時に敷地内駐車場掃除、草取りを利用者で行っている。また、近所を散歩する際には、声かけ等し、近所づきあいを継続的に続け地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高・専門学生の実習時、傾聴ボランティア来所時に認知症の方への支援方法を伝える。職員が認知症キャラバンメイトの研修を受け、地域の方が認知症の理解を深める活動に参加していたが、今年度は新型コロナウイルス流行により実施できなかった。	小・中・高・専門学生の実習時、傾聴ボランティア来所時に認知症の方への支援方法を伝える。職員が認知症キャラバンメイトの研修を受け、地域の方が認知症の理解を深める活動に参加していたが、今年度は新型コロナウイルス流行により実施できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス流行のため、開催を見合わせた。文書による情報提供のほか、アンケート実施により意見や、意向確認を行い集計した結果を返送することで情報共有を行った。また、挙げられた意見を日々のケアやサービス向上に活かしている。	今年度は新型コロナウイルス流行のため、開催を見合わせた。文書による情報提供のほか、アンケート実施により意見や、意向確認を行い集計した結果を返送することで情報共有を行った。また、挙げられた意見を日々のケアやサービス向上に活かしている。	今年度は、コロナ禍の影響で運営推進会議は行えなかったが、家族、市役所担当者、区長、民生委員に満足度アンケートを実施、集計結果を配布している。外部評価結果も上記全員に配布し、玄関の見やすい場所に常備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームのケアに関すること等を伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、市町村との関係を築いている。	市町村の担当者に居室の空き情報等を伝える際、グループホームのケアに関すること等を伝えている。市町村からも入居に関する問い合わせや相談があり、市町村との関係を築いている。	市役所からの依頼で、災害時、事業所がラインなどで情報発信する拠点の場になるために、研修を受け協力関係を築いている。事業所の利用状況などについても話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議や研修、必要時カンファレンスを開き身体拘束について学習や検討をしている。身体拘束をしないケアが基本だが、止むを得ない時は家族に報告し同意書を頂き、状況報告も随時行っている。現在、身体拘束は1件も行われていない。	フロア会議や研修、必要時カンファレンスを開き身体拘束について学習や検討をしている。身体拘束をしないケアが基本だが、止むを得ない時は家族に報告し同意書を頂き、状況報告も随時行っている。現在、身体拘束は1件も行われていない。	身体拘束については月に1回、各フロア・施設全体で会議を行ない現状や問題点を検討しており議事録は全職員に回覧している。利用者、それぞれの「個」を大事にすることで、尊厳を保つケアを実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議、フロア会議において虐待について研修を行い、虐待防止に向け取り組んでいる。職員本人が気づかないうちに虐待ではないかと思われる行為をしている場合には声をかけ指導している。	全体会議、フロア会議において虐待について研修を行い、虐待防止に向け取り組んでいる。職員本人が気づかないうちに虐待ではないかと思われる行為をしている場合には声をかけ指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが権利擁護推進委員の研修を受け、施設内研修を実施するなどして、日常生活支援及び、成年後見制度について学び、活用している。	管理者、ケアマネが権利擁護推進委員の研修を受け、施設内研修を実施するなどして、日常生活支援及び、成年後見制度について学び、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約などの際には入居者やご家族の不安や疑問を訊き、説明し、理解してもらえるよう関わっている。	契約の締結、解約などの際には入居者やご家族の不安や疑問を訊き、説明し、理解してもらえるよう関わっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	上記疾患流行のため、家族会、運営推進会議など開催を見合わせたが、アンケート実施により意見や、意向確認を行った。また、普段からご家族とまめに情報交換を行い、意見、要望、本音を言いやすい環境を作っている。頂いた意見、要望は職員で共有し、ケアに反映できるよう努力している。	上記疾患流行のため、家族会、運営推進会議など開催を見合わせたが、アンケート実施により意見や、意向確認を行った。また、普段からご家族とまめに情報交換を行い、意見、要望、本音を言いやすい環境を作っている。頂いた意見、要望は職員で共有し、ケアに反映できるよう努力している。	新型コロナウイルスの流行により、面会や訪問が出来ないことについて利用者、家族から残念だと意見があり、電話取次ぎや居室窓越しの面会を行うことで要望に添うよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する事はフロア会議などで職員に伝えている。会議の中で職員の意見を聞き、検討、抽出した意見を全体会議などでセンター長に伝え、共有し必要な意見は運営に反映させている。	運営に関する事はフロア会議などで職員に伝えている。会議の中で職員の意見を聞き、検討、抽出した意見を全体会議などでセンター長に伝え、共有し必要な意見は運営に反映させている。	管理者は現場職員の意見を十分に聞き、介助者の負担を軽減する介護機器の導入を行うなどして運営している。シフトについても希望休の取得、3連動以上にならないシフト作成の工夫をし、働く意欲の向上や質の確保に繋げて居る	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人一人がやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを持っている。	代表者は職員一人ひとりがやりがいを持って働けるよう、管理者や職員と話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設内の年間研修計画を立案すると共に、施設外の研修へ積極的に参加するよう促し、働きながらも職員それぞれがスキルアップできるよう努めている。	代表者は施設内の年間研修計画を立案すると共に、施設外の研修へ積極的に参加するよう促し、働きながらも職員それぞれがスキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者や職員が同業者と交流することを勧めており、地域ネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問などの活動を通してサービスが構築できるようにしている。	代表者は管理者や職員が同業者と交流することを勧めており、地域ネットワーク作りや勉強会への出席や相互訪問などの活動を通してサービスが構築できるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人の思いが表出できるような言葉をかけ、表情や発言、心身状態の観察を細やかに行い、困っている事、必要としている事を抽出し、本人との関係が早期に築けるよう努力をしている。	サービスを導入する段階で、本人の思いが表出できるような言葉をかけ、表情や発言、心身状態の観察を細やかに行い、困っている事、必要としている事を抽出し、本人との関係が早期に築けるよう努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、ご家族の思いが表現できるよう話し合いを持ち情報収集し、発言、表情の観察を細やかに行い、言葉に出来ない想いを察するよう努め、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。	サービスを導入する段階で、ご家族の思いが表現できるよう話し合いを持ち情報収集し、発言、表情の観察を細やかに行い、言葉に出来ない想いを察するよう努め、ご家族との関係が早期に築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、入居者、ご家族の思いを聞き、希望に添うよう努めている。一例としては同施設内のショートステイ利用、入居後の歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問理美容サービス、エアマット導入などがある。	サービスを導入する段階で、入居者、ご家族の思いを聞き、希望に添うよう努めている。一例としては同施設内のショートステイ利用、入居後の歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問理美容サービス、エアマット導入などがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の想いに寄り添い、共に喜怒哀楽を共有し、職員は入居者を介護される側のみならず、暮らしを共にする者同士の関係を築くようにしている。	入居者の想いに寄り添い、共に喜怒哀楽を共有し、職員は入居者を介護される側のみならず、暮らしを共にする者同士の関係を築くようにしている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

山梨ケアセンターそよ風

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族からの支援は入居者にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者の支えになっていることが喜びである。情報の共有を密に行い、入居者とご家族が今まで築いた関係を大切にしながら、日々のケアを行っている。	ご家族からの支援は入居者にとって大きな喜びであり、ご家族も入居者の支えになっていることが喜びである。情報の共有を密に行い、入居者とご家族が今まで築いた関係を大切にしながら、日々のケアを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は新型コロナウイルス流行により実施できない場面が多かったが入居者が今まで大切にしていた馴染みの方が面会しやすい環境を作り、居室にてゆっくり過ごせるよう配慮している。	今年度は新型コロナウイルス流行により実施できない場面が多かったが入居者が今まで大切にしていた馴染みの方が面会しやすい環境を作り、居室にてゆっくり過ごせるよう配慮している。	事業所では利用者、家族との電話の取次ぎ、家族から届く年賀状、手紙に返事が出来るように支援している。コロナ禍で関係作りが難しい環境ではあるが、誕生日には家族からプレゼントが届くことが多い。プレゼントの服を着た写真や届いた花と一緒に写る写真を送ることで家族との繋がりが保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、フロアでの座席を配慮し、入居者同士が関わり、支え合えるような支援をしている。また、施設内のレクリエーションなどでも入居者のADLや関係性を考え、関わり、支え合いができるよう支援している。	入居者同士の関係を把握し、フロアでの座席を配慮し、入居者同士が関わり、支え合えるような支援をしている。また、施設内のレクリエーションなどでも入居者のADLや関係性を考え、関わり、支え合いができるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後、ご家族が来所された際や、折に触れ電話する等して近況を尋ね「必要に応じた支援をさせていただきます」とお伝えしている。	契約終了後、ご家族が来所された際や、折に触れ電話する等して近況を尋ね「必要に応じた支援をさせていただきます」とお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の進行などにより会話が難しい方、言葉に出来ない思いを持っておられる方の表情、言動の観察を細やかに行い、言葉をかけ、話を引き出すこと等で、入居者の気持ちに寄り添うケアができるよう努力している。	認知症の進行などにより会話が難しい方、言葉に出来ない思いを持っておられる方の表情、言動の観察を細やかに行い、言葉をかけ、話を引き出すこと等で、入居者の気持ちに寄り添うケアができるよう努力している。	言葉を伝えにくい方には日々の関わりの中で、その方の生活歴を元に行動を細やかに観察している。山が好きだった方には図書館から写真集を借り、すぐに手に取れる場所に置くことで感情を引き出す支援をしている。また、「家に帰りたい」という利用者には家の近くをドライブし、見慣れた景色、変化した環境を見ることで職員と会話が弾み、気分転換できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調査し、職員全員で共有、入居後も会話や日々の関わり、ご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。	入居が決まった時点で、生活歴、入居前の暮らし、ご家族との関わり方などを調査し、職員全員で共有、入居後も会話や日々の関わり、ご家族からの聞き取りなどで情報収集を絶えず行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の入居者に日々チームとして関わる中で、表情や、言動の観察を細やかに行い、出来ないことと決めつけるのではなく、どうすれば出来るのかを職員で検討、共有し入居者の持っている力を存分に活かす努力をしている。	一人一人の入居者に日々チームとして関わる中で、表情や、言動の観察を細やかに行い、出来ないことと決めつけるのではなく、どうすれば出来るのかを職員で検討、共有し入居者の持っている力を存分に活かす努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一人一人、利用者のケア会議を職員全員で行い、担当者会議も定期的実施している。利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	毎月一人一人、利用者のケア会議を職員全員で行い、担当者会議も定期的実施している。利用者の変化や新たな課題等を発見し、家族との情報交換にも力を入れ、現状に即した介護計画立案に向け努力している。	ケアプラン作成前には、必ず担当者会議で検討し情報を共有している。各フロア内でケア会議をし、日々モニタリングをして、楽しみ事も組み入れている。家族の要望や変化が生じた場合には、モニタリングに基づいた介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人一人の記録を見て、読んで役に立つよう記載することで、ケアの実践、気づき等を職員間で共有し、入居者の現状に則したケアが実践できるよう努力している。	入居者一人一人の記録を見て、読んで役に立つよう記載することで、ケアの実践、気づき等を職員間で共有し、入居者の現状に則したケアが実践できるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果		事業所名	山梨ケアセンターそよ風	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。希望者(必要と思われる方)には、歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問マッサージ、訪問理美容なども取り入れている。	利用者が求めているものは何か、ニーズを見極め、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。希望者(必要と思われる方)には、歯科往診、歯科衛生士訪問、訪問マッサージ、訪問理美容なども取り入れている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、近隣の耳鼻科、歯科、皮膚科、病院、薬局、消防署、商店、幼稚園、小、中、高、専門学校、民生委員、区長、ボランティアの方々の力を借りている。	地域包括支援センター、近隣の耳鼻科、歯科、皮膚科、病院、薬局、消防署、商店、幼稚園、小、中、高、専門学校、民生委員、区長、ボランティアの方々の力を借りている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の希望がある場合は入居者とご家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望がある場合は入居者とご家族の意向を尊重し、継続的な医療が受けられるよう支援している。	基本的には24時間体制で在宅医療に熱心に取り組んでいる医師が主治医として対応しているが、本人、ご家族の意向を尊重し、かかりつけ医の診療を継続的に受けられるよう支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来ている。他部署の看護師とも日々情報交換することで連携をとっている。介護と看護での連携を密にし適切な医療や看護が受けられるようにしている。	週1回訪問看護師が来ている。他部署の看護師とも日々情報交換することで連携をとっている。介護と看護での連携を密にし適切な医療や看護が受けられるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際は生活歴、家族関係、既往歴、現病、日々の生活の様子、ADLなどを情報提供し、入居者に適した治療、ケアが受けられるようにしている。また機能低下を最小限にするため、短期間で退院ができるよう病院関係者と話し合いを持ち、入院中面会に行くようにしている。	入院する際は生活歴、家族関係、既往歴、現病、日々の生活の様子、ADLなどを情報提供し、入居者に適した治療、ケアが受けられるようにしている。また機能低下を最小限にするため、短期間で退院ができるよう病院関係者と話し合いを持ち、入院中面会に行くようにしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族、入居者に終末期の過ごし方、看取りの希望があるか等確認する。入居後も日々変化する状態に対し、ご家族、各専門職が情報共有を密に行い、終末期をどんなふうに通ごしたいか、見送りたいか、何をを行うか、行わないのか確認し、気持ちに寄り添えるよう努力している。	入居時、ご家族、入居者に終末期の過ごし方、看取りの希望があるか等確認する。入居後も日々変化する状態に対し、ご家族、各専門職が情報共有を密に行い、終末期をどんなふうに通ごしたいか、見送りたいか、何をを行うか、行わないのか確認し、気持ちに寄り添えるよう努力している。	在宅医療に於いて、重度化や終末期に取り組んでいる医師の連携で、職員も看取りを安心して出来る環境にある。また、栄養士と相談して、看取り期の栄養についてや歯科医師の口腔ケアについても協力を得ている。エアマットの導入について、介護用品の専門知識の方と相談して、馴染みの環境で過ごせる様にチームで取り組んでいる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習を受講し急変時の対処法を勉強している。また、急変に備え予測される対処方法、ご家族、各専門職の連携について職員が実践できるようフロア会議で話し合いをしている。	職員が普通救命講習を受講し急変時の対処法を勉強している。また、急変に備え予測される対処方法、ご家族、各専門職の連携について職員が実践できるようフロア会議で話し合いをしている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を月1回実施し、災害や火災時に備えている。特に新人職員には避難用具、消火器、消火栓の位置、避難場所までの避難経路を確認するよう徹底している。また、地域の消防署と連携し夜間想定火災時避難訓練を年1回実施している。	日勤帯、夜勤帯想定避難訓練を月に1回は実施し、災害や火災時に備えている。特に新人職員には避難用具、消火器、消火栓の位置、避難場所までの避難経路を確認するよう徹底している。また、地域の消防署と連携し夜間想定火災時避難訓練を年1回実施している。	月1回の避難訓練では、職員の発案で大きな声で「助けて」と言う訓練をし、日々の生活の中から必要な事柄を取り上げて実施している。水害想定訓練では、2階の階段からの訓練を行い、一人ひとり項目毎に評価をし写真も付けて、振り返りを行っている。備蓄品もある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで入居者の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、日々のケアの中で職員同士の良くない所はお互いに注意し合いながら、入居者の尊厳やプライバシーを守るケアを続けている。	日々のケアで入居者の自尊心やプライバシーを守る言葉かけや対応を心がけている。また、日々のケアの中で職員同士の良くない所はお互いに注意し合いながら、入居者の尊厳やプライバシーを守るケアを続けている。	本人の気持ちを大切に支援している。特に尊厳に関わる排泄介助については利用者に合わせた声かけの工夫をしている。1日の過ごし方においても一人一人の思いを聞き、自己決定しやすい言葉かけをし、尊厳を守っている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	山梨ケアセンターそよ風	[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]	
自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価
			ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)	実践状況
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話が出来ない入居者や、想いをうまく表現できない方に関しては、表情、行動の観察、言葉かけを行い、想いを察し、気持ちに寄り添い、何をしたいか…など自己決定できるよう支援している。	会話が出来ない入居者や、想いをうまく表現できない方に関しては、表情、行動の観察、言葉かけを行い、想いを察し、気持ちに寄り添い、何をしたいか…など自己決定できるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物、外出など希望があった時には、入居者の想いを聞き、その日の過ごし方を話し合い決めている。	入浴や買い物、外出など希望があった時には、入居者の想いを聞き、その日の過ごし方を話し合い決めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服、服飾品など好みの物を選んで頂いている。	洋服、服飾品など好みの物を選んで頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しい時間となるよう入居者の持っている力を最大限に活かし、調理、配膳、食事、片付け等一連の流れをスタッフと共にやっている。	食事が楽しい時間となるよう入居者の持っている力を最大限に活かし、調理、配膳、食事、片付け等一連の流れをスタッフと共にやっている。	献立は本社の物と同じであるが、利用者の日常の会話の中で好みの物を聞き、食材は地域の店を利用して2フロア一緒に作っている。利用者に高齢の方がいるが食器を拭く事が役割の一つであり、他の利用者と一緒にいる程である。鈴カステラを作ったり、お月見団子を作り季節を感じながら楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の心身状態、体重の増減、食の好みなどを把握し、健康維持に必要な量(食事、水分)や、栄養バランスにも配慮した食事、間食、水分等を提供している。	一人一人の心身状態、体重の増減、食の好みなどを把握し、健康維持に必要な量(食事、水分)や、栄養バランスにも配慮した食事、間食、水分等を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の口腔状態に合わせて、食事前に口腔体操、毎食後口腔ケアを行っている。また、入居者、ご家族の希望や必要性があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実に努めている。	入居者の口腔状態に合わせて、食事前に口腔体操、毎食後口腔ケアを行っている。また、入居者、ご家族の希望や必要性があれば定期的な歯科往診、歯科衛生士訪問を取り入れ、口腔ケアの充実に努めている。	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄することを基本にしている。オムツを使用する際には、排泄パターンを把握し、その方に適したオムツの交換時刻、パッド類の選定をしている。	トイレで排泄することを基本にしている。オムツを使用する際には、排泄パターンを把握し、その方に適したオムツの交換時刻、パッド類の選定をしている。	一人ひとりのサインを全職員が把握し、さりげなく支援している。自立の利用者には、オムツをしなくて済む暮らしの支援に努めている。排泄パターンを把握して、日中・夜間の排泄量によってオムツやパットの対応をしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれの便秘の原因究明を職員間の情報共有にて行い、それぞれに合った支援を行っている。具体的には1日1500cc以上の水分摂取、牛乳を飲む、時間を決めてトイレ誘導しトイレに座って頂くなど行っている。	それぞれの便秘の原因究明を職員間の情報共有にて行い、それぞれに合った支援を行っている。具体的には1日1500cc以上の水分摂取、牛乳を飲む、時間を決めてトイレ誘導しトイレに座って頂くなど行っている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそって支援をしている	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的な物、体調等で実現出来ない方もいる。年齢や体調、本人の意思に合わせて、週に最低2回は入浴できるようにしている。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲で本人のペースに合わせているようにしている。	基本的には毎日入浴が望ましいが、年齢的な物、体調等で実現出来ない方もいる。年齢や体調、本人の意思に合わせて、週に最低2回は入浴できるようにしている。入浴時間は健康に影響を及ぼさない範囲で本人のペースに合わせているようにしている。	基本的には、週2回午前中となっている。寒い冬の季節に入浴を拒む利用者には、足湯を進めたり、言葉かけを工夫して対応している。利用者こだわりの物は、家族が用意している。季節にはゆず湯で、入浴を楽しむ支援をしている。

自己評価および外部評価結果		事業所名	山梨ケアセンターそよ風	外部評価	
自己	外部	自己評価(実践状況)		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		ユニット名(つつじの郷)	ユニット名(はぎの丘)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人の状態に合わせて、自分の思いを 表出できない方には、表情、言動の観察、言葉かけ を行い、入居者の状況を見極め、臥床、休息を 勧めている。夜間は安眠できる環境整備(室温、湿度、 リネン、照明等)をしている。	入居者一人一人の状態に合わせて、自分の思いを 表出できない方には、表情、言動の観察、言葉かけ を行い、入居者の状況を見極め、臥床、休息を 勧めている。夜間は安眠できる環境整備(室温、湿度、 リネン、照明等)をしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法 や用量について理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている	利用者が確実に内服できるよう職員が支援している。 内服の効果が確実に表れているか、副作用がないか等、 職員全員で確認し、各専門職との連携も密に取り合 っている(主治医往診時薬剤師も訪問している)。	利用者が確実に内服できるよう職員が支援している。 内服の効果が確実に表れているか、副作用がないか等、 職員全員で確認し、各専門職との連携も密に取り合 っている(主治医往診時薬剤師も訪問している)。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人にあった役割を職員とともに、行い、 楽しみや達成感などを共有している。	入居者一人一人にあった役割を職員とともに、行い、 楽しみや達成感などを共有している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援に努めている。又、普段は行けないよ うな場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人 々と協力しながら出かけるように支援している	今年度は新型コロナウイルス流行に伴い困難な場面 も多かったが、入居者の心身状態、意向の確認を行 い外出している。また、季節感を味わえるよう、四 季折々の外出レクリエーションも企画し実行してい る。	今年度は新型コロナウイルス流行に伴い困難な場面 も多かったが、入居者の心身状態、意向の確認を行 い外出している。また、季節感を味わえるよう、四 季折々の外出レクリエーションも企画し実行してい る。	コロナ禍の現状で特別な外出は、思うように実施でき なかったが、コロナ対策を行い、桜・紅葉を観に行く等 の支援を行なった。玄関に出て事業所の前を通過する 電車を見たり、ベンチに出て洗濯物たたみ・シャボン 玉飛ばし・日なたぼっこなどそれぞれが好きな事で五 感刺激の機会としている。歩行困難の利用者は、車い すですべて戸外に出る支援をしている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持 したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことにより安心感を感じている ことを職員は理解している。買い物希望がある時 には職員と話し合い買い物に行っている。預り金に 関してはご家族、入居者と話し合い規定に基づき 管理をしている。	利用者がお金を持つことにより安心感を感じている ことを職員は理解している。買い物希望がある時 には職員と話し合い買い物に行っている。預り金に 関してはご家族、入居者と話し合い規定に基づき 管理をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時にできるよう、プライバシーに配慮 しながら支援している。また手紙も同様の支援をして いる。	電話をしたい時にできるよう、プライバシーに配慮 しながら支援している。また手紙も同様の支援をして いる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、 トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねく ような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないよ うに配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地 よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、採光などを管理し、居心地良い環境作 りの工夫をしている。季節感のある空間になるよう 、季節の花、植物、展示物をフロアに飾るようにし ている。また、レクリエーションや普段の生活の様 子を写真に撮り掲示する事でご家族も来所時、普 段の様子を知る事が出来るよう工夫している。	温度、湿度、採光などを管理し、居心地良い環境作 りの工夫をしている。季節感のある空間になるよう 、季節の花、植物、展示物をフロアに飾るようにし ている。また、レクリエーションや普段の生活の様 子を写真に撮り掲示する事でご家族も来所時、普 段の様子を知る事が出来るよう工夫している。	加湿器を玄関1箇所、フロアごとに5箇所置き、加湿に 努めるなど感染症対策をしっかり行っている。管理者 が季節に合わせたイラストをプリントしフロアに貼 る。利用者には、年の初めに抱負を書いてもらいフロ アに掲示することで折に触れ見返し会話も弾んでいる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫 をしている	共用空間にソファを置く、座席の移動を自由に行 えるようにしたりと、気分転換できる居場所の工夫 をしている。	共用空間にソファを置く、座席の移動を自由に行 えるようにしたりと、気分転換できる居場所の工夫 をしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし て、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしてい る	居室の中には、利用者や家族と相談し、使い慣 れたテレビや家具、冷蔵庫、家族の写真、仏壇など を置くことで、住み慣れた自宅に近い環境を整え、 居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室の中には、利用者や家族と相談し、使い慣 れたテレビや家具、冷蔵庫、家族の写真、仏壇など を置くことで、住み慣れた自宅に近い環境を整え、 居心地良く過ごせるよう工夫している。	本人の希望で和ダンス、仏壇が持ち込まれている居 室もある。また、最高齢の利用者は日めくりカレン ダーをめくることが日課としており、カレンダーをつ つす位置も職員と相談して決め、めくりやすい位 置、高さの工夫をするなど居心地の良い環境づく りに努めている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	必要な所に手すりを設置したり、段差の解消など フロアの安全に配慮している。壁面には日めくりカ レンダー、月ごとのカレンダー、時計の設置もしてい る。トイレは分かりやすく明示している。居室にも入 口に名前を貼るなどして分かりやすくしている。	必要な所に手すりを設置したり、段差の解消など フロアの安全に配慮している。壁面には日めくりカ レンダー、月ごとのカレンダー、時計の設置もしてい る。トイレは分かりやすく明示している。居室にも入 口に名前を貼るなどして分かりやすくしている。	